

地上型3Dレーザ活用収穫調査講習会が開催されました

令和4年10月19日(水)・20日(木)、山辺町内の国有林と山形森林管理署会議室を会場として地上型3Dレーザ活用収穫調査講習会が開催され、署員が参加しました。

この講習会は、東北森林管理局が、地上型3Dレーザを活用した収穫調査の試行・普及を図るため、山形県内各森林管理署の担当者や森林官等収穫調査を実施する職員を対象に、1日目が現地での地上型3Dレーザによる収穫調査方法の講習、2日目が得られたデータを解析して立木材積等の把握の手順を確認する座学の構成で開催されました。

立木の販売等に当たって行っている「収穫調査」は、調査員が立木の直径や樹高を専ら目視や器具を用いて測定していますが、これを地上型3Dレーザによる調査に置き換えていくことで、地形等の詳細な林内情報が容易に得られるほか、計測した数値の入力など集計作業の簡素化も含めた収穫調査業務全体の効率化が図れると考えられます。一方、樹種や品質区分の評価が難しいといった課題もあり、地上型3Dレーザ計測の特性を考慮しながら、メリットを活かした調査方法が求められています。

森林資源の効率的な把握は民有林・国有林共通の課題であり、講習会が開催されるに当たって、西川町にお声がけしたところご担当者の参加をいただき、後日「民有林・国有林の連携の事例を積み重ね署も町もともによくなっていきたい」とのコメントをいただきました。

講習会開催を受け、11月7日(月)には、講習開催に参加した職員が講師役となって当署職員を対象とする伝達研修も行い、地上型3Dレーザによる効率的な森林調査技術の横展開を図りました。今後、当署に配備される地上型3Dレーザを活用して、県内各署での操作の習熟と、市町村へのご紹介など地域連携を進めていく考えです。

【写真：局による講習会の様子】



【写真：伝達研修の様子】

